



エネルギー文化・スポーツ財団助成事業
広島芸術学会《芸術展示》

「制作と思考」第7回展 テーマ：けはひ（気配）

会期：2009年（平成21年）1月13日（火）～1月18日（日）

会場：広島県立美術館 県民ギャラリー

7回目を迎えた今回展には、42名の会員から応募があり、6日間の会期中、1,372名の来場者があった。テーマは「けはひ（気配）」。

「けはひ」は「人の——」「秋の——」「時代の——」などのように、ものごとの漠然とした状況を推し測る感覚的な言葉として使われている。それだけに、この語に対する受け取り方は各人各様、大いに異なってくる。「けはひ」からは「予感」「兆し」「空気」「雰囲気」など、さまざまな場面を想起することができる。

テーマの設定では、「けはい」とするか、「けはひ」とするかで迷ったのだが、結局、伝統的な表記を優先することにした。「けはひ」は、旧仮名遣いということもあって身構えそうな語だが、その実、よくよく吟味すると、創り手それぞれに共通する語としては、とらえやすいテーマだったように思う。手前味噌になるが、この語の普遍性という点では、比較的幅広い解釈を可能にするものだったのではないだろうか。

本展の「テーマ」は毎回、委員会の討議によって定められるという慣例になっている。また、思考はむろん、技法も素材も、毎回各人各様「てんでんばらばら」というのがこの展覧会の特徴になっている。テーマがあるからといって、ある一定の方向に展覧会自体を誘導しているとは考えにくい。創り手にとってのテーマとは、制作に当たった際の「ヒント」。創り手は、制作にあたってそのヒントをいかに取り込み、生かし、表現するか。そこがこの展覧会のキー・ポイントと言っていだろう。会場風景を思い返すと、何点かの印象に残る作品が浮かんでくる。



■ 有田悦子 “兆しー動き始める”

全面モノトーンに薄いカーテンといった単純な画面だが、背後には人の“けはひ”が…。テーマを直截にとらえた作品。

■ 石下早苗 “古刹の月”

敦煌莫高窟が主題。砂上の風紋、重畳たる山並みと天空の月…。確かな染め色のグラデーションと遠近感がとが遙かな口マンを染め上げた。

■ 岡田真理子 “終り”

“けはひ”にも“終り”がある。縄紐で結ばれた衣類らしきものが残滓のようにみえて私的な時間の経過を感じさせる。

■ 金本啓子 “朱の着衣”

背景のシマウマには意外性。画面の大半を占める鮮やかな朱色が背景と相まって華やいた“けはひ”（雰囲気）を演出する。

■ 嘉屋重順子 “歩けないワタシ”

得体の知れない動物が心細い四脚で中空に立つ。この夢想世界は、近未来に対して作者が感じる“けはひ”だろうか。

■ 千田 禪 “胎動”

深い青を背景にした微細な朱の線描に、生命科学の神秘が描かれる。やがて出現する生命体を“けはひ”として予感、確信させる作品。

■ 范 叔如 “影”

うしろ姿はさまざまな連想を呼び起こす。抑制した色彩とうしろ姿に“けはひ”が漂う。

■ 船田奇峯 “天界風景”

溶解・変形する実体と背後にある女体らしき影は天界の“けはひ”なのか。表具や額縁の役割についても考えさせられた作品。

■ 三浦実一 “想”

個が個を包み込む。やわらかな造形に包容力とヒューマニズムの“けはひ”あふれる作品。

■ 吉井早智子 “晴・雨・風・雪の日”

オムニバス風に仕立てた四つの小画面からなる。柔らかなタッチでありふれた日常を描いた画面には、茫洋とした“けはひ”が見え隠れする。



これらの諸作のほかにも紹介すべき作品は多いが、紙幅の関係もありここまでとする。



なお末筆ながら、このたびの展覧会には、財団法人エネルギー文化・スポーツ財団（広島市中区・中国電力(株)内）から、本展の開催運営費として多額の助成をいただいた。ここに特記して深甚の謝意を表する次第である。

（報告者：倉橋清方）

「兆し—動きはじめる—」 1630 × 2000

有田 悦子

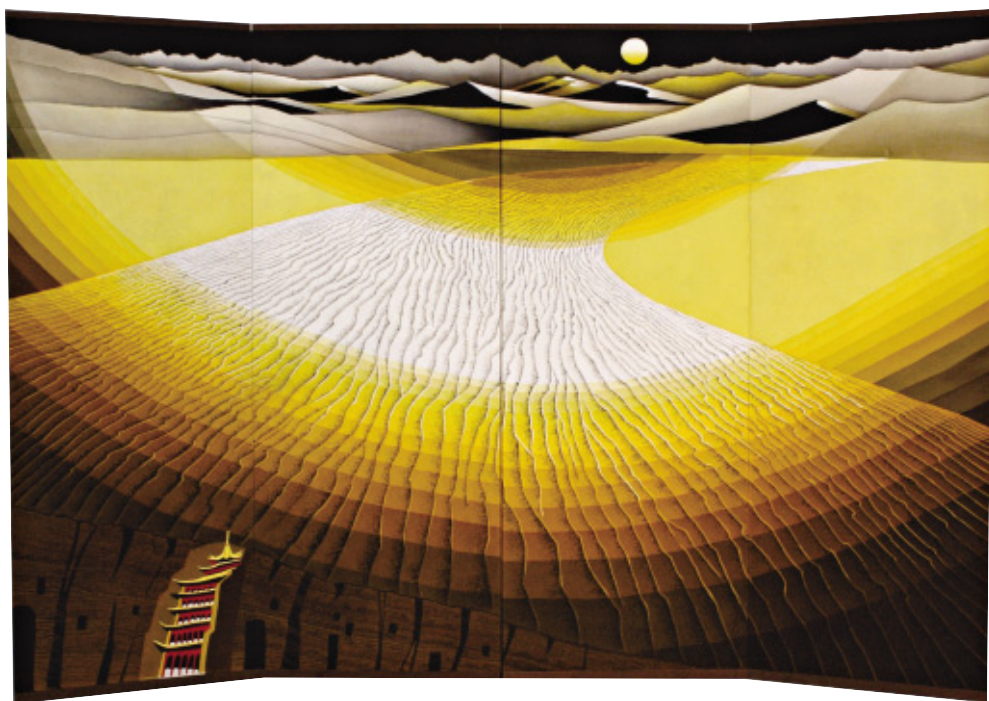


「今宵は御一緒に」 1620 × 1300

井川 雅子



「古刹の月」 1550 × 2400
石下 早苗



「NEVER」 2000 × 2000
大成 大輔



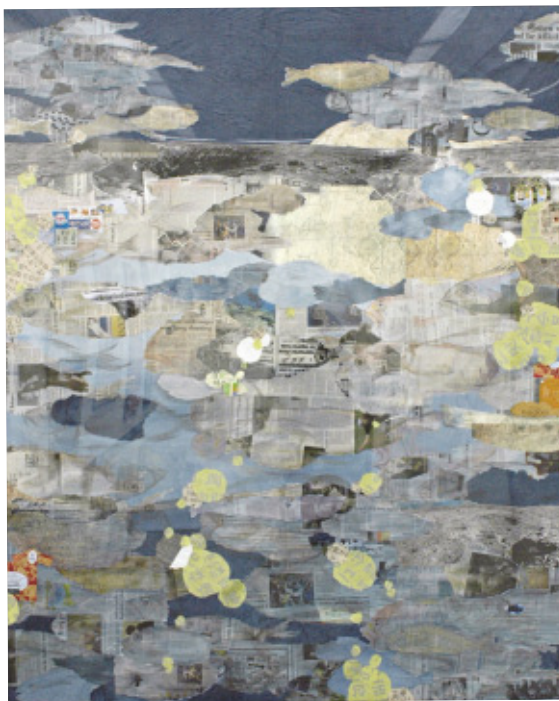
「印刷所の風景」 300 × 420 × 800
岡 孝博



「終り」 1620 × 1290
岡田 真理子



「海の危機」 1620 × 1300
荻野 憲子



「朱の着衣」 1300 × 1620
金本 啓子



「歩けないワタシ I」 1620 × 1620

嘉屋重 順子



「Pontus 1/Pontus 2」 300 × 600 × 300

加藤 宇章



「北窓の側で」 1620 × 1120

木原 和敏



「銀河にそそぐ清流」 300 × 500 × 370

木本 一之



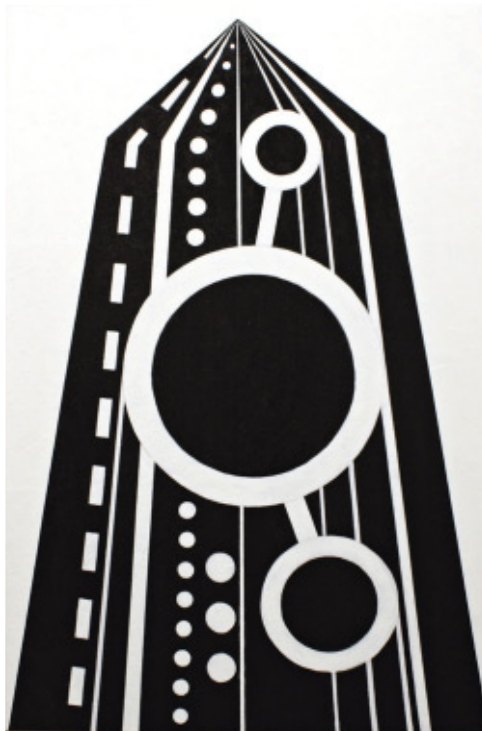
「キオクノユクエ' 09- I」 1900 × 1600

越川 道江



「異次元の気配」 2700 × 1850

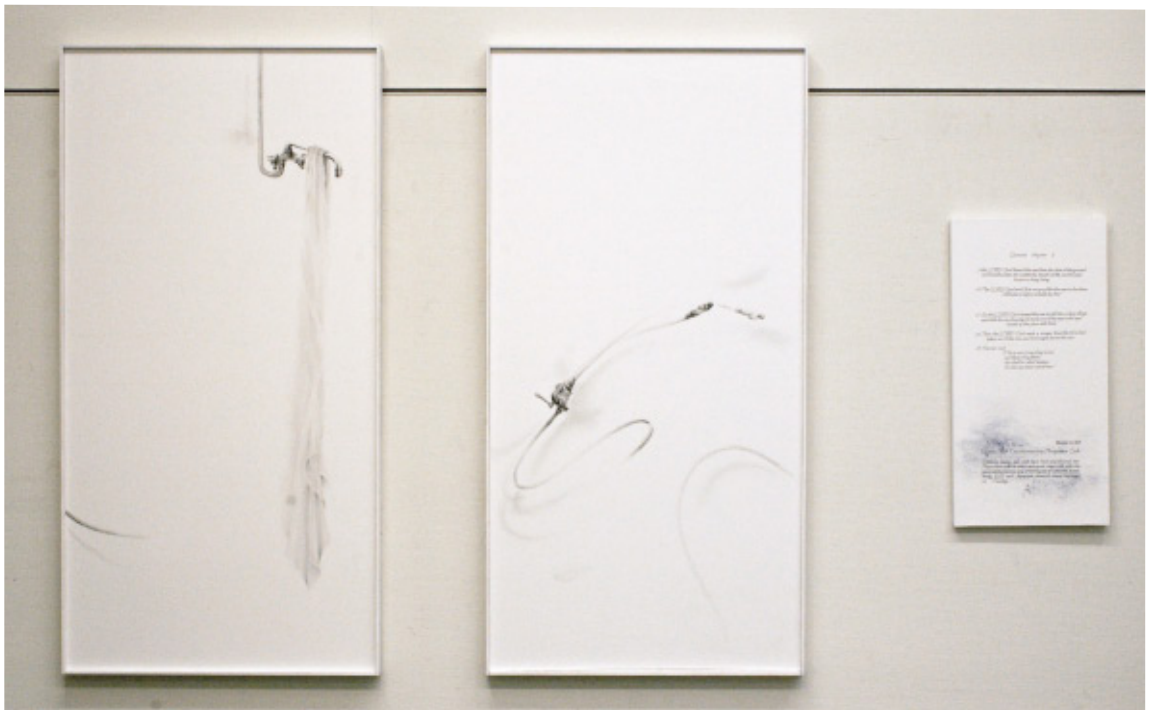
才田 博之



「drawing」 530 × 460
佐々木 敦子



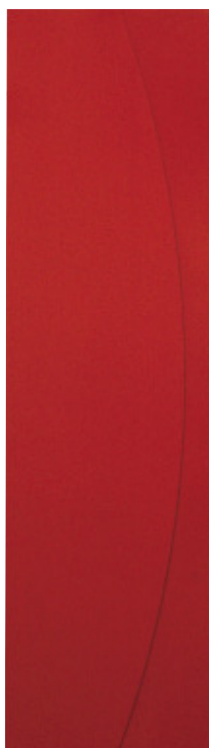
「Adam & Eve」 1830 × 450
佐野 恵子



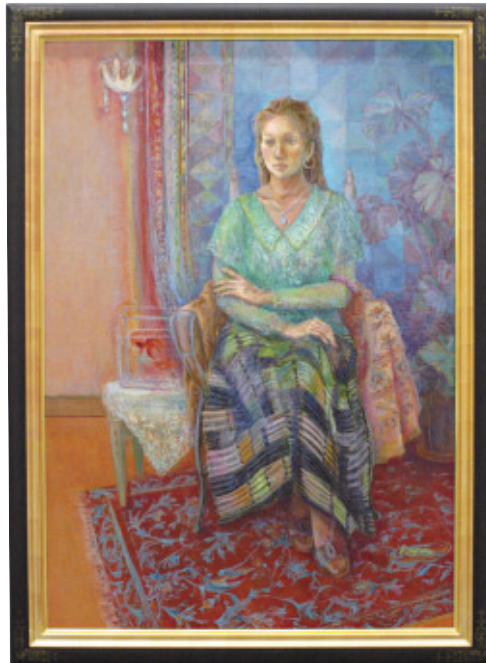
「真生」 1800 × 1800
椎木 剛



「if」 1800 × 250
柴田 史



「室内」 1620 × 1300
社河内 綾子



「けはひ (灼熱の中で)」 1620 × 1300
白井 史朗



「そばにいるからね」 1170 × 1170

新林 道子



「胎動」 1620 × 1620

千田 禅



「時の間」 1620 × 1300
田川 久美子



「はるか・08」 3500 × 1200
竹村 信子



「IDATEN」 1300 × 1940

多田 益也



「プロセス考」 700 × 1000

鳥谷部 圭子



「わたしたちⅠ」、「わたしたちⅡ」 1620 × 1300

谷口 みち子



「けはひ」

寺内 大輔



「Ciao」 1610 × 1610
徳田 ヌキコ



「動静」 760 × 1000
夏目 暢子



「生(き)一予感」 1800 × 1800
根木 達展



「キコエル」 1170 × 1170
林田 真弓



「影」 730 × 900
范 叔如



「生きものたち」 1700 × 1360
檜垣 敏子



「扉のむこう」 1800 × 1800 × 1800

福島 俊を



「森の中から」 1600 × 1300

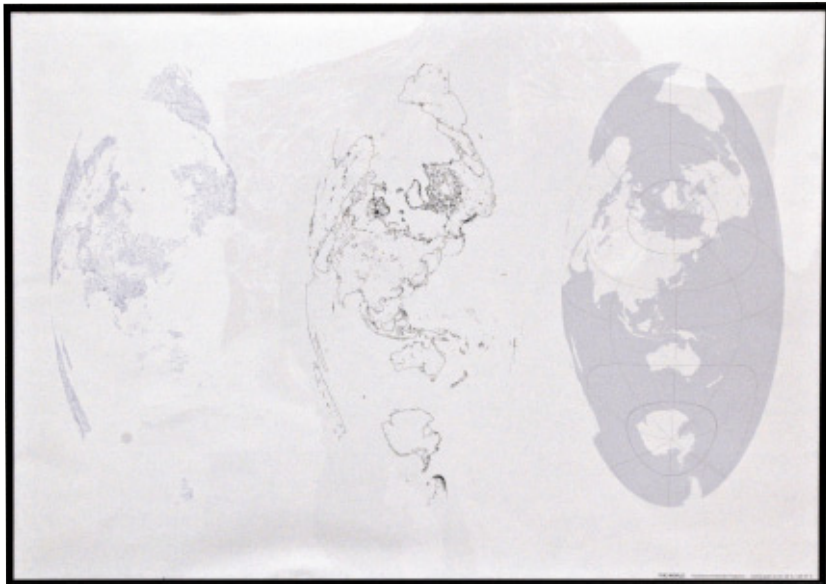
藤本 真理子



「天界風景」 2000 × 900
船田 奇岑



「World Map」 730 × 1030
の場 智美



「想」 200 × 400 × 580
三浦 実一



「Work I・II」 1300 × 1920
吉井 章



「晴・雨・風・雪の日」 2000 × 2000

吉井 早智子



「風に遊ぶ」 920 × 1220

吉原 暁美

